

筑波大学・インドネシアのパジャジャラン大学と トマト育種に関する国際共同研究協定を締結



調印式 (パジャジャラン大学)
本学江面教授 (左)と
Dr. Ir. H. Sudarjat 氏 (右)



国際共同研究協定締結式
国際共同研究協定締結式



講義終了後、記念撮影

左から、筑波大学修了生 Dr. Syariful Mubarak, UNPAD 講師
星川 健 助教
江面 浩 教授
Vice Dean, Faculty of Agriculture, Ir. Anas, M.S.C, Ph.D

2017年8月3日、筑波大学は、インドネシアパジャジャラン大学 (Universitas Padjadjaran; UNPAD) と熱帯トマトの品種改良に関する共同研究協定を締結しました。本学のバイオリソースと知見を活用して、熱帯地域でも安定生産可能なトマトの開発を目指します。調印

式は、同日パジャジャラン大学にて開催された国際共同研究協定締結式内で行われ、本学からはつくば機能植物イノベーション研究センター長・江面浩教授が参加し、パジャジャラン大学の Faculty of Agriculture の Dean, Dr. Ir. H. Sudarjat, M.P と協定を締結しました。また、国際共同研究協定締結式では、江面教授を含め3名が発表を行い、150名ほどの学生・研究者が参加し、活発な質疑応答が行われました。また、国際共同研究協定締結式、前日8月2日に講義が行われ、本学江面浩教授および星川健助教が発表を行いました。